

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立港南造形高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	1 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 2 学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上
計画名	美術教育最先端“港南造形の ICT 飛躍的改造”計画 “Konan drastic innovation”

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成</p> <p>(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。</p> <p>ア 1年次より、全員がタブレット端末(BYOD)のポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ（全 HR 教室）と連動させることで、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を飛躍的に向上させる。「学習動画」を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、苦手教科（数学・理科）の克服を図る。</p> <p>イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業や ICT を活用した授業の拡充を図る。</p> <p>ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。</p>
事業目標	<ul style="list-style-type: none">「ICT を活用した授業改善」により、学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答（平成 29 年度 78%、平成 30 年度 84%、令和元年度 80%）を、令和 4 年度には 90%に近づける。「発信力」の育成について、卒業時にはすべての生徒が ICT 機器を活用して、プレゼンテーションができる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。今回、普通教室（15 室）への短焦点プロジェクタを設置することにより、生徒が所有する Android タブレット端末の活用を促進する。
整備した 設備・物品	電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ 9セット
取組みの 主担・実施者	主担者：ICT 活用授業改善チーム 実施者：全教員の 8 割程度を予定（最終的には全教員）
本年度の 取組内容	HR 教室に設置した「超短焦点プロジェクタ」を 1 年め、2 年め以上に積極的に活用し、視聴覚教材を用いて各教科で授業を行った。授業の好事例については教科間、教員間でも情報共有し、多くの教員が超短焦点プロジェクタをはじめ、Chromebook の活用頻度も高まった。

<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 造形科を含む全教科での活用 【評価指標】活用した教科数（全9教科◎ 6教科以上○ 5教科以下△） ・ 各教科の代表による公開授業での ICT 活用の実践発表と研究協議 【評価指標】実践発表・研究協議の実施教科数（全9教科◎ 6教科以上○ 5教科以下△） ・ 学校教育自己診断の分析と情報共有 【評価指標】肯定率の向上（3%以上◎ 2%以上○ 向上なし△） ・ 教科別活用状況に対する評価 【評価指標】授業アンケートによる教科別の肯定率（87%以上◎ 78%以上○ 77%以下△）
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全9教科でプロジェクタを活用した。…………… (◎) ・ 国語・数学・英語・地歴公民・体育・造形の6教科による、公開授業で ICT を活用した研究授業と研究協議を実施し、各々の教員のスキルアップをすることができた。………… (○) ・ 学校教育自己診断の肯定率は、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」が93%（昨年度89%）と向上した。…………… (◎) ・ 授業アンケートでは設問「先生はプリント等の教材、ICT 機器等を効果的に活用している。」に対して各教科平均の肯定的評価は92%であった。…………… (◎) <p>本年度転入者が前任校でも積極的に ICT を活用していたケースが多く、校内研修よりも先に様々な授業で ICT の積極活用が始まった。周囲の教員も刺激を受け、また教材準備ではこれまでよりも分かりやすい教材を短時間で作成できることが実感できることで授業準備の工数削減・業務効率化も実現できた。</p> <p>また、当初想定していなかった用途として、文化祭等での動画発表やプロジェクションマッピング的な使い方が見られるようになった。</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>HR 教室に設置した「超短焦点プロジェクタ」は、設置翌年に1人1台端末が導入されたことで加速度的に使用頻度が高まり、いまでは超短焦点プロジェクタなしでは授業が成立しないと思われるほど各教科で幅広く活用されている。当初は、定期的な教員向け研修を実施して、少しずつ活用頻度を高めるように計画していたが、教員間で積極的に情報共有がなされ、その利便性の高さから自然と活用が広がった。</p>